キャラクター名
黒神　達哉

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17歳	性別	男性
覚醒	渇望	衝動	憎悪	初期侵食率	35 %
出自	疎まれた子	経験	平凡への憧れ	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	2			2
感覚	2	0	0			2
精神	4	1	1			6
社会	2	0	0			2

HP	30
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	4		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：学問	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
放たれし黒の隕石	ＲＣ	8r+4	8	6		コンセ2+黒の鉄槌2+因果歪曲2+黒星の門1
放たれし黒の隕石	ＲＣ	12r+4	7	8		コンセ3+黒の鉄槌3+因果歪曲3+黒星の門2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：研究者	
思い出の一品	
制服	
カジュアル	
アクセサリー	
携帯電話	
生徒手帳	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：想い人	P	N		
玉野椿	P　尊敬	N 劣等感		
凪白 雪花（想い人の対象）	P　純愛	N　恥辱		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：バロール	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果： C値－LV（下限値7）								
黒の鉄槌	2	1	メジャー	視界	-	RC	-	
効果： 「攻撃力：+[LV×2+2]」の射撃攻撃。同エンゲージ不可。								
因果歪曲	2	3	メジャー	-	範囲（選択）	シンドローム	-	
効果： 組み合わせたエフェクトを範囲（選択）に。同エンゲージ不可。シナリオLV回。								
黒星の門	1	2	メジャー	-	-	シンドローム	ピュア	
効果： 組み合わせたエフェクトを同エンゲージ対象可にする。また、組み合わせ判定ダイス+[LV×1]個する。								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%↑	
効果： 相手の判定直前。その判定を失敗となる。判定しないものには不可。シナリオ１回。								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

EA・LM仕様。

コンボ
放たれし黒の隕石（ブラック・メテオ・ストライク）　RC：射撃攻撃、射程：視界、対象：範囲（選択）・至近可、攻撃力：6、ダイス：8、侵蝕値：8
≪コンセントレイト：バロール≫2+≪黒の鉄槌≫2+≪因果歪曲≫2+≪黒星の門≫1　通常時
≪コンセントレイト：バロール≫3+≪黒の鉄槌≫3+≪因果歪曲≫3+≪黒星の門≫2　100%時

8dx+4@8　通常時
9dx+4@8　60%時
10dx+4@8　80%時
12dx+4@7　100%時

「俺のルールに反する奴は、問答無用でぶちのめす！」
黒神達哉（くろかみ　たつや）。17歳の高校生でUGNチルドレンだ。シンドロームはバロールのピュアブリード。
俺は元々望まれて生まれた奴じゃない。両親が馬鹿みたいに避妊もせずにヤりまくってたせいで出来ちまったようで、餓鬼の頃から暴力を振るわれる毎日を送っていたよ。しかも幼稚園や保育園に入るくらいの歳に捨てられちまった。まったく最低な両親だ。
まぁ、運良く孤児院の職員に拾われてな。そこでなんとか生活は出来たさ。

だが、生憎暴力を受けて育った身だからな。他人なんか信用は出来ないし、話すのだって面倒だった。俺以外の全員『敵』とさえ思っていたくらいだ。いつも目付きを鋭くして嫌悪感を出して近付けさせないようにしてた。全く、可愛げのない餓鬼だったよ。
先生達は優しくしてくれてはいたが、俺はその好意さえ受け付けられなかった。面倒な子だと思われていただろう。